

建設情報 *Iwate*

県内総合

改良や舗装工事を推進予定

狐禅寺大平線 制限付で関連工事公告中

一関市は、市道狐禅寺大平線の改良について今年度、改良や舗装工事を推進する計画としている。現在、関連となる同線道路改良(第3工区)工事、同線道路改良舗装(第4工区)工事(合冊)が、制限付一般競争で公告中となっている。今年度は、さらにもう1件程度の工事についても発注を見込んでいる。

市道狐禅寺大平線の改良に関しては、既存の狐禅寺大平線と市道

真滝中央線の交差部から、市道雁田線をつぶす路線として整備を進めているもの。延長990m、幅員6.0(11.5)mで、幅員3mの歩道を片側に設置する全体計画となっている。

構造物として、整備計画の区間内に流れる滝沢川に橋梁1橋(宮田橋)を設けるほか、山田川にはボックスカルバート1基を設けることを見込む。橋梁は、橋長20.314mで、プレテンション方式PC

ニュースのお知らせ

〒020-0015 盛岡市本町通3-9-33
本社編集部へ
TEL (019) 623-8201
FAX (019) 623-8204

単純T桁橋の形式。ボックスカルバートについては、幅5.2m、高さ5m、長さ37.7mの規模のものとなる。

総事業費として約16億8000万円を投入する見通し。市では、現段階で24年度頃の事業完了を構想している。

現在の主な進捗状況を見ていくと、区間内に設ける橋梁は、橋面部の舗装も含めて施工が完了。橋梁前後の改良工事が進行してきているほか、ボックスカルバートについては全体のうち3分の2程度が進んだ状況となっている。

現在公告中の工事は、申請期間が23日までで、27日の入札が予定されている。合冊工事のそれぞれの工事内容は、第3工区が施工延

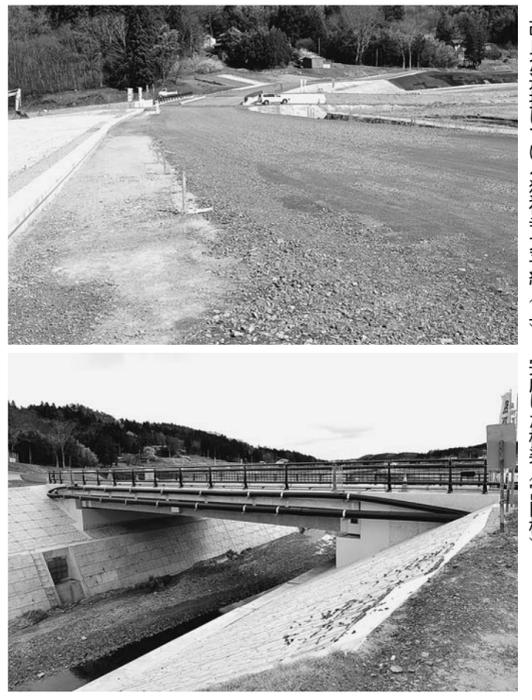
長60m。これまで施工していた箇所からは離れた箇所での土工事を内容としている。

第4工区は、308.9mの施工延長となっている。真滝中央線の交差部から橋梁手前までの区間の舗装工事、さらに第3工区の近隣箇所での土工事を実施するものとなる。

今回公告した工事の進捗状況を見ながら、今秋ごろにもう1件の工事を発注したい考え。ボックスカルバートの残工事、あるいはボックスカルバートに係る付帯工事のいずれかを内容として見込んでいる。

狐禅寺大平線と真滝中央線との交差部側には、県立磐井・南光病院が近隣に立地している。雁田線側に住む市民らが磐井・南光病院へアクセスするためには、市道弥栄線を経由するルートがあるものの、弥栄線には大雨時に冠水被害の発生しやすい箇所があり、その場合には、かなり迂回する必要がある。

冠水対策、さらには路線の整備自体が磐井・南光病院へのアクセス性を上げることにつながるため、狐禅寺大平線の新設を計画した。今回の新設に関しては、既存の狐禅寺大平線が市道東工業団地線から真滝中央線まで設置されており、以降から延伸との意味合いも含まれている。



改良が進捗している狐禅寺大平線(上)、完成した橋梁(宮田橋)

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える



地区防災計画制度に取り組んだ地区での災害時の住民の警戒避難の実態

岩手大学農学部森林科学科教授

井良沢 道也

わが国では国レベルでの総合的かつ長期的な計画である防災基本計画と、都道府県や市町村レベルの地域防災計画に基づき防災活動が行われてきました。しかし、平成23年に発生した東日本大震災のような市町村の行政機能が一時的に麻痺するような災害では、自助や共助、公助がうまく結びついていく必要があることが認識されるようになってきました。地区防災計画とは、平成25年の災害対策基本法の改正により、市町村内の一定の地区の居住者及び事業者(以下、「地区居住者等」)が行う自発的な防災活動に関する計画であり、また、地区居住者等が市町村防災会議に対して計画に関する提案(計画提案)を行い必要であれば市町村防災計画に規定することができる制度です。平成31年2月までの時点で、42都道府県132市町村3206地区で策定済みもしくは策定に向けて活動が行われており、23都道府県41市町村248地区において地区防災計画が市町村の地域防災計画に反映されています。しかし、岩手県内では現在6地区(大槌町2地区、陸前高田市1地区、岩泉町3地区)とまだ少ないです。

このように、地区防災計画では地区居住者等が主体的となり、人口構成や地理条件等の地区の特性・実情を踏まえた防災計画をボトムアップ型で策定できる点や防災計画策定の過程で地区の居住者等の防災意識が向上される点などがメリットとしてあげられています。しかし、策定後に計画が機能した事例等の調査は少ない。

そこで、土砂災害を想定した地区防災計画策定後、平成30年7月豪雨の際に住民の自主避難に成功した先進事例調査からその効果や今後の課題等について検討を行いました。調査対象地は岐阜県下呂市小坂

町落合地区です。世帯数74戸、人口198人、高齢化率約50%と過疎高齢化が著しく進んでいます。土砂災害や洪水、融雪型火山泥流による被害が想定されることなどから、平成28年から地区防災計画の策定に着手し、平成30年7月豪雨では、避難準備・高齢者等避難開始情報や避難勧告が発令される前に住民が自主避難を行いました。

本地区で行った調査は次の2つです。



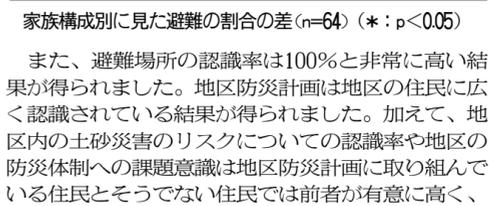
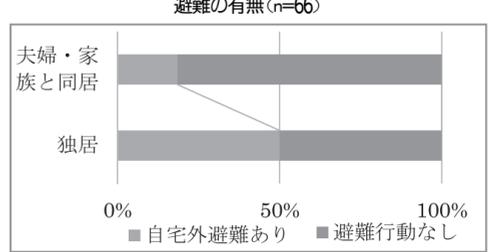
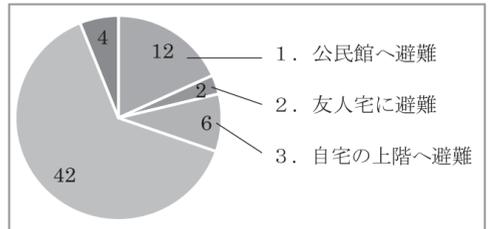
濁河川 落合地区 河川増水状況 (下呂市平成30年6月28日小坂地区豪雨災害)

- 1) 地区防災計画の内容等について地区長および下呂市役所職員を対象に聞き取り調査を行いました。
- 2) 同地区住民を対象に、平成30年7月豪雨時の避難行動や防災意識、地区防災計画への取り組み状況等について戸別訪問による聞き取り調査(質問数:21)を行いました。

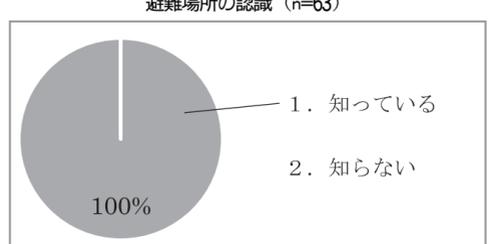
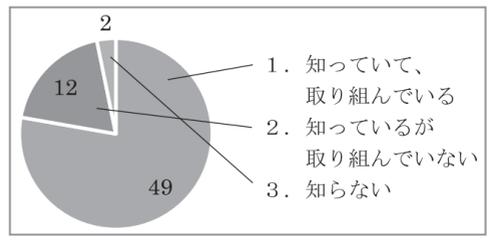
1) 聞き取り調査結果より、落合地区では地区防

災計画の取り組みとして近隣の3軒から5軒程度の小グループで、災害時に避難時に声かけや避難の手助けを行う「少人数声かけ避難」が行われていました。また、地区内の住民の避難支援が難しい要支援者に対して、地区の役員や防災リーダーを中心とした避難支援が行われていました。なお、図上演習等は行われていたが、避難経路などの検討や自主ハザードマップの作成は行われていませんでした。

2) 調査の結果(有効回答数:64)から、平成30年7月豪雨の際の落合地区の自宅外避難の割合はおよそ2割であり、避難した過半数の住民は周辺環境の変化がきっかけで避難行動を行っていました。一方で、避難した住民の家族構成については、「夫婦・家族と同居」と「独居」では後者のほうが有意に高く、地区の防災リーダーを中心とした要支援者への避難支援の効果が表れたものと考えられます。



地区防災計画の取り組みにより、防災意識の向上にはある程度効果があったと考えられます。



本地区では、地区内の災害リスクや防災の課題の把握、災害時の要支援者の支援を実施しており、地区防災計画の取り組みが防災力向上に一定の効果があることを示しました。しかし、防災リーダーとその他の住民との意識の違いや災害時の避難行動の実効性等の課題も明らかになりました。今後はさらに地区住民個々の自助および地区全体の共助を高めていくために、継続的な防災訓練等の活動および地区防災計画の定期的な見直しを行っていくことが必要であると考えられます。行政としては、今後防災リーダーの育成支援や地区防災計画や地域の防災を見直すきっかけづくりを行っていくことが求められます。

本調査を進めるにあたって、下呂市職員の皆様ならびに落合地区住民の皆様にご協力いただきました。深く感謝申し上げます。なお、本調査は砂防学研究室の後藤玲央くん(現:林野庁治山課勤務)が卒論として取り組みました。

実証 スマートコンストラクション。

3Dデータで、建設機械と現場と人をつなぐ。経験の浅いオペレーターが、整地に挑んだ。現場の仕事は、どこまで変わるのか。

KOMATSU D37PXi-23 KOMATSU PC128USJi-10

これまでない現場も、これからは現場ともな。 SMART CONSTRUCTION

「スマートコンストラクション」を採用します。 <http://smartconstruction.komatsu.co.jp/> スマートコンストラクション

コマツの試験場ではある実験が行われた。経験1年10年程度の若いオペレーターに、水をイメージした土の層を掘削し、整地に挑んでもらう。実は、彼らには、難しい作業が待ち構えていた。それは、2台のICTコンストラクションというICTソリューションだ。

ICTソリューションが、土を掘り出した。指示データが、すでにインポートされている若いオペレーターの仕事は、黄色い車体の前後には、ほぼ自動で作業を進めてくれる。油圧シリンダは、滑りやすい手元のボタンを使い、法面の傾斜や土の水分を調整しながら、本来なら、ベテランにしかできないような作業も、若手でも簡単にこなすことができる。結果は、この通りである。建設現場の常識が、いま大きく変わりはじめている。

コマツ岩手株式会社

盛岡・花北・奥南・水沢・釜石・大船渡・遠野・久慈・二戸・宮古

本社/〒020-0891 紫波郡矢巾町流通センター南2-9-5
TEL 019-638-1100(代)
<http://www.e-komatsu.com/iwate/>